



医療のための 質的・混合研究法

Day 3

東京大学GNRC

横浜市立大学客員准教授
オックスフォード大学リサーチフェロー
大竹 裕子©

本概論で学べる内容

1日目

- ・質的研究とは何で、質的研究法とは何をするための研究法なのかを理解する。
- ・質的・量的研究の違いは何で、混合法とは何を混合しているのかを理解する。

2日目

- ・質的研究の成り立ちと特徴について理解する。
- ・質的・量的研究の前提となる認識論について理解を深める。

3日目

- ・質的研究が実際に知を生産する過程を知る。

4日目

- ・質的研究の質 (rigour) および国際論文の査読ポイントについて学ぶ。

3日目に学べる内容

- ・質的研究が実際に知を生産する過程（特に、研究計画書の書き方）について知ることができる。
- ・質的研究のリサーチクエスチョン(RQ)を立て、適切な方法を選択できるようになる。

参考文献

- ・Green & Thorogood 2018 Chapter 3, in Qualitative Methods for Health Research, SAGE.
- ・フリック 2011 質的研究入門—“人間の科学” のための方法論 春秋社
- ・Charmaz, K. Constructing Grounded Theory 2nd Edition. SAGE Publications, London, 2014.
(岡部大祐(訳), グラウンデッド・セオリーの構築 [第2版], ナカニシヤ出版, 2020)
- ・佐藤 郁哉 2002 フィールドワークの技法：問い合わせを育てる、仮説をきたえる 新曜社
- ・エマーソン他 1998 方法論としてのフィールドノート：現地取材から物語り作成まで 新曜社

質的研究の知の生産過程

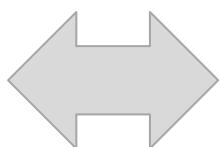
＜概論＞

質的研究の循環サイクル

現場



- 現場での体験から**問い合わせ**が生まれる
- データ生成
対話する、体験する、検証する
- メンバーチェック



論理的思考

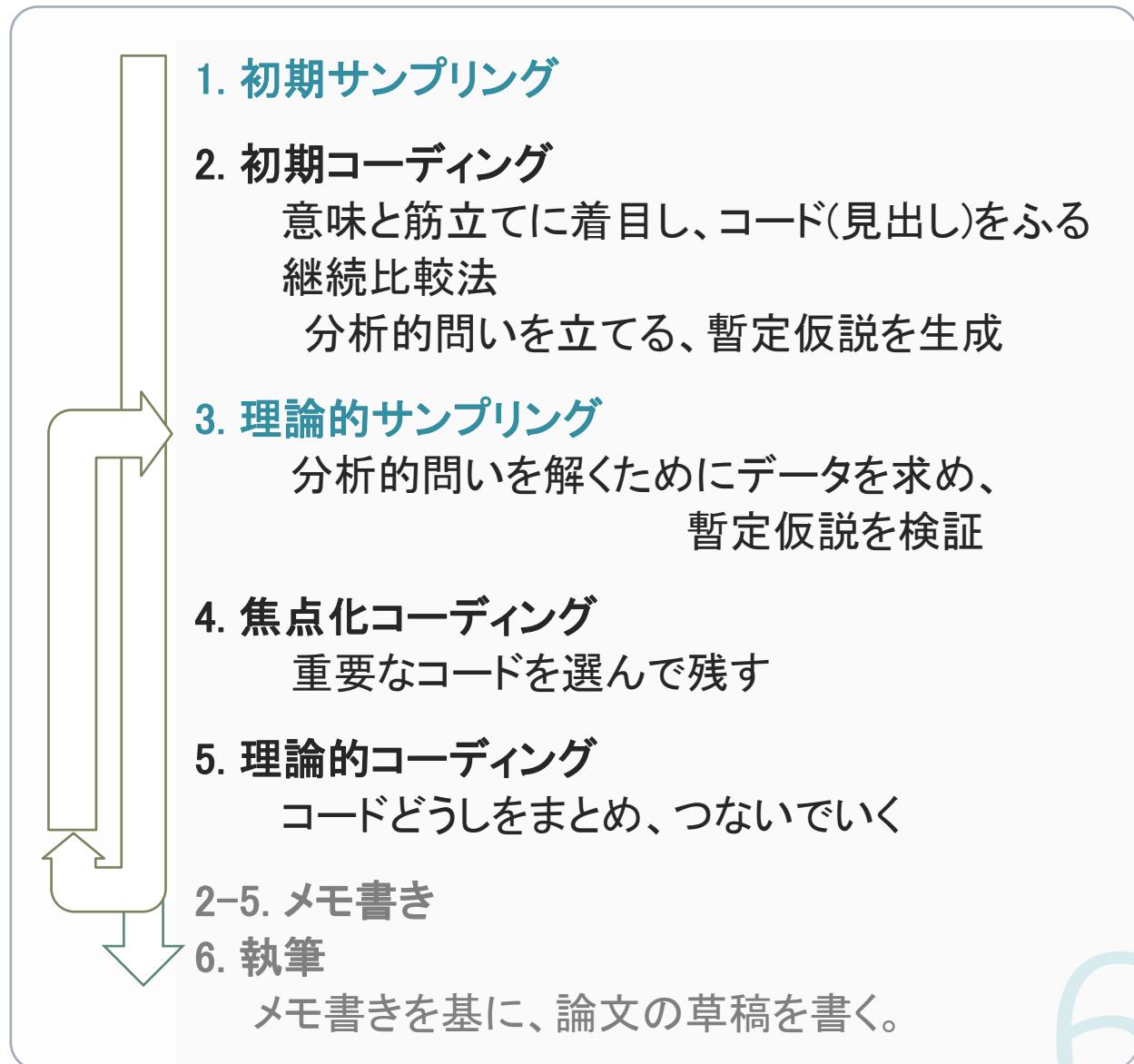


- リサーチクエスチョン(**問い合わせ**)を設定する
「なぜ?」「どのように?」
- データ分析し分析的**問い合わせ**を立てる
「それは何を意味するのか?」
「何がどうなってそうなるのか?」
- 理論化・仮説生成
意味と筋立てに注目
論理的な説明を生み出す

質的研究の循環サイクル

現場から離れず理論化する

- ・データ生成、分析、執筆を循環的に行う。
- ・一次、二次、三次分析…を行う。
- ・リサーチクエスチョンとインタビュー内容を随時改定する。



コーディング例

あるパーティーで、酒に酔った男性に背中を触られたが、私は大声を出すとその場の雰囲気を壊しそうで、恥ずかしいので黙って耐えた。

その後まもなく年配の女性が近づいてきて、その男性の行為を非難したあげく、

私をなじり始めた。「あなたもじつとしてないで、拒否すべきだったんじゃないの？！」。

「ああこれがセカンドレイプか」と納得したが、

女性の敵は女性という実態は変えていかねばならないと思う。

取引先のクライアントに食事に誘われ、顧客だったので断れませんでした。 [...] 帰り際、エレベーターで無理やりキスをされました。どうして良いのかわからず、泣きながら家に帰りました。

会社には報告しましたが、証拠がないと泣き寝入りをするしかない状態で、

今でも思い出すと気分が悪くなります。

女性の尊厳を尊重する世の中になってしまいほしいです。

断れない状況

- ・場を壊すから(場)
- ・恥ずかしいから(規範)
- ・顧客だから(関係性)

援助希求と二次被害

- ・責められる
- ・証拠がないと言われる

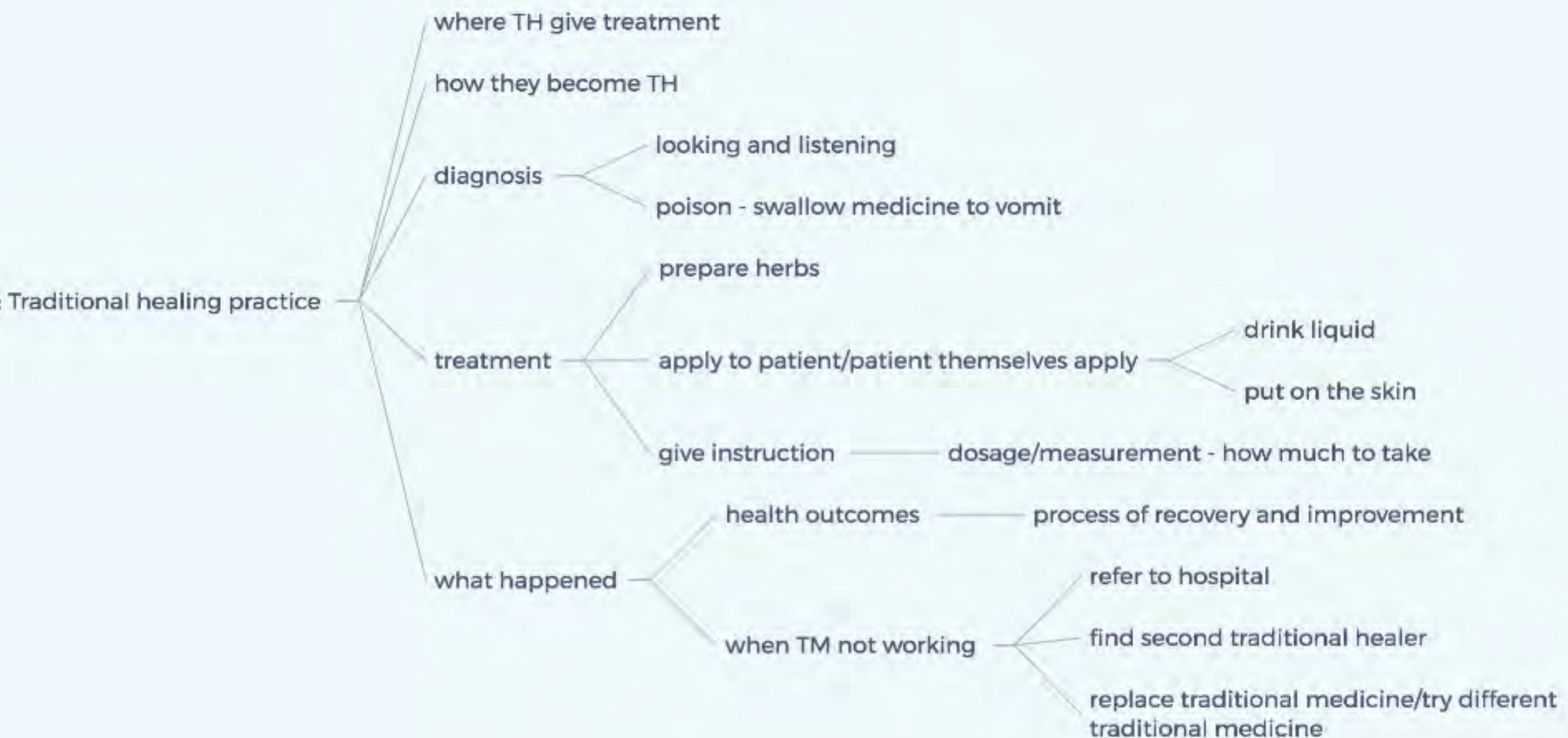
二次被害の影響

- ・気分が悪くなる
- ・納得する(諦める)

学び

- ・女性が味方になる
- ・尊厳を尊重する社会

コーディングスキーム例



分析結果の筋立てづくり

OSOP Reasons wanting CS

No choice / med necessity?
01 (pp) 02 (read) 18 (time)
19 (pp - entirely). 24 (previous)
14 (entirely).
caring for other child / planning
B2 B3

Safety of baby loss of distress
03 05 08 15 27 28 29
Great birth but exp
11 12

~~Don't like the not knowing/plan~~
Don't like the not knowing/plan
with certainty
06 08 16 19

05 23 29
feeling uncomfortable
05

05
05 06 15 18 (later
selected) 28

‘Selrohi’/convenience
208 19 (July 2016) 20 (July 2016)

Avoid induction
HS Husband agreed
in men 3-28.

Big baby
19 27

Feels would
bond better
is planned
less tired etc
28.

Feels would
bond better
if planned &
least tired etc
Is energy
would be GA
wants to be
planned & aware
24

If energy
would be GA
wants to be
planned & aware
2c

16 energy would be GA wants to be planned & aware 26

06134 06581 Consultant does want to sanction decision that he won't then carry

061517

Not sure who resp. for initial info. written into doc. is not correct.

1.5 ^{? longer}

Worry re hernia

838

Swayed by low
% living males 18%
02

62

rest consultant
05 29 does not
bel

05 29

will help
S 27

† Would have hated to end up with another emergency CS & long labor

21 05 08 15 16 19
28 27 24
varied. electric other than energy
18 18

Good recovery last time
19

Feels would
bond better
is planned &
less tired etc
28.

商標繪里

ひとりで暮らす、ひとりを支える

高齢者ケアの
エスノグラフィー

質的研究の知の生産過程〈各論〉 ～研究テーマとRQの設定～

全体の流れ

研究テーマとRQの設定
文献レビュー

研究計画書を書く
背景・目的/RQ・方法
フィールドワークの準備

フィールドワーク
データ生成・分析・メモ書き
初期
中期
後期

執筆
結果・考察



研究テーマとRQの設定

原始体験、素朴な問い合わせprimitive questionを振り返る

- ・あなたはなぜ、このテーマに関心をもったのか？
- ・あなたはなぜ、研究がやりたいのか？

自分の「レンズ(認識論・ものの観方・アプローチ)」を自覚する

- ・これまで受けてきた教育は？社会経験は？影響を受けた思想は？
- ・あなた自身の個人的な背景は？
- ・あなたは誰で、なぜ、このテーマを扱いたいのか？

スーパーバイザー探し
自分とレンズの近い人
経験や教育の近い人

研究テーマの焦点をしほる(写真のピント合わせ)

- ・何の病い？セッティングは(community/hospital/association-based)？
- ・誰の視点からそのテーマを描きたいか(当事者、医療者、行政)？



RQの設定

- ・素朴な問い合わせを、RQ(研究によって答えられる問い合わせの形)へ。2~3個が目安。
- ・色々な人と話したり、文献レビューをしたりしながら作る。

研究テーマの焦点をしほることは
写真のピント合わせに似ている

文献レビュー – critical literature review

Critical literature reviewとは

そのテーマに関する学術的な議論を理解する上で、特に大事な文献をレビューするやり方

目的

- ・ どんなキープレーヤーが、どんな認識論・理論的立場から、何を主張しているかを知る
- ・ これまでの議論の流れと、目下、議論の俎上にあがっていることは何かを知る

やり方

- ・ 総論と各論、グローバルとローカルの先行研究をおさえる。マップや年表を作成
- ・ 文献ごとにメモ書き（誰が、どんな認識論的・理論的立場から、何を主張しているか）
→ 自分の立場およびRQを、マップのどこか位置づける

戦国時代の陣取り図のように
キープレーヤーの地図を描く



研究結果や発見よりも
議論の流れを追う

目のつけどころ

- ・ 論争中、未解決、不適切に扱われている、大事なのに研究不足、である課題は何か
- ・ 先行研究では、何がアサンプション(前提)となっているか
→ 先行研究の限界であり、あなたの研究の可能性がある

前提をくつがえす研究、論争を解決する研究は、学術的な貢献度がより高い

素朴な問い合わせRQへの例：生活保護受給者の通院脱落

素朴な問い合わせ

生活保護受給者のなかには、医療を受けられるにもかかわらず、通院が継続しない人たちがいる。なぜ、彼らは病院に来なくなるのか？

RQ（目的）

生活保護受給者たちが、医療サービスとどのように関わり合っているのかを探索し、彼らの多くがなぜ、医療サービスから脱落してしまうのかを理解する。

サブRQ

- 1 生活保護受給者たちは、「医療サービス」を、どのように体験しているのか。
- 2 生活保護受給者たちは、どのようなプロセスで、「医療サービス」と相互交渉しながらそれを利用しているのか。
- 3 生活保護受給者たちは、なぜ、「医療サービス」から脱落してしまうのか。

上記のRQsを解くことで、

脱落理由を深く理解し、医療サービスの在り方の改善に役立てる。

文献レビュー

「社会的弱者の医療サービス利用」に関する文献を調べる。
→利用パターン、脱落理由

先行研究の前提

直線的な観方

前提をくつがえす 独自の発想

「医療サービス利用」はもっと複雑な、相互交渉のプロセス。
→ Candidacy理論

文献レビューからRQへの例：トラウマの世代間伝達

背景

紛争や災害、パンデミックなどの人道危機がもたらす心理的影響は世代間伝達されることが知られており、研究者たちはこれを「トラウマの世代間伝達」として研究してきた。

研究テーマ
概念を定義

先行研究をひもとくと、

生物学的アプローチからは、遺伝的要因……といった、生物学的メカニズムが解明されてきた。

一方、心理社会的アプローチからは、生育環境における模倣……といった、認知行動メカニズムが解明されてきた。さらに、より社会的なアプローチでは、共同体の記憶と語りを通じた、社会的な伝承のメカニズムが解明されてきた。

文献レビュ
(総論または
グローバル)

しかし、これらの議論は、被害者とは受動的で脆弱な存在であるとの観方を前提としており、困難や苦痛に対して能動的に対処する人々の姿は見落とされてきた。

前提を崩す

そこで本研究では、人道危機を生き延びてきた人々を、困難や苦痛に能動的に対処する能力をもつ主体として見る。そして、困難や苦痛に対処する方法(コーピング)がどのように世代間伝達されてきたのかを明らかにする。

自分の立場
を表明

コーピングの世代間伝達についての先行研究は極めて少なく……

文献レビュ
(各論または
ローカル)

近年、トラウマの世代間伝達が盛んに議論され始めたルワンダでは……

RQ コーピングに関する記憶と語り、実践が、どのように世代間伝達されてきたのかを調べる。

RQ(目的)と
サブRQ

- 要素——コーピングを構成する要素にはどのようなものがあり、何が世代間伝達される(またはされない)のか。
- 過程——コーピングを構成する要素は、誰が、どのようにして伝達しているのか。
- 条件——コーピングの世代間伝達は、いつ(どのような条件下で)起こるのか。

質的研究の知の生産過程〈各論〉 ～研究計画書を書く～

研究計画書を書く

なぜ研究計画書を書くのか？

- ・ 厳格性の高い調査手続きを計画することで、質的研究の質を保つことができる。
- ・ 漠然としたテーマから、焦点をしぼった調査を行うため。
- ・ 自分のもつ認識論的立場や分析アプローチを明確化するため。
- ・ 研究参加者への説明責任を果たし、倫理的な調査を行うため。

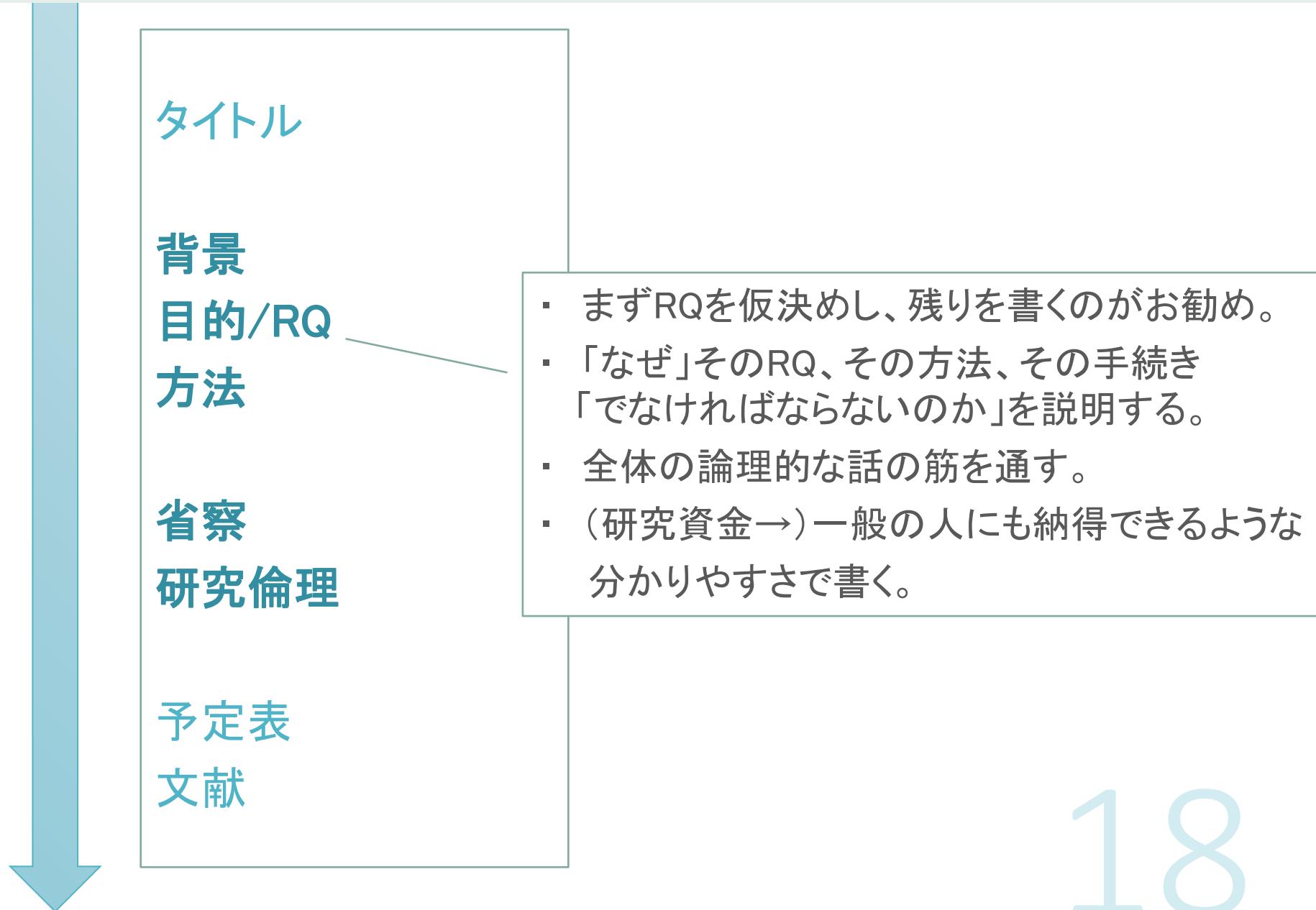
研究計画書がないと…

フィールドで迷う。興味本位や思いつきでデータ収集。都合の良いものだけ分析して執筆 → 恣意的な研究

研究計画書は…

恣意的な研究になるのを防ぐ。フィールドでのガイドマップになる。論文の草稿にもなる → 厚い記述。深い内容
但し、几帳面に遂行する必要はない。RQや調査手続きは、進行とともに柔軟に変えてよい(柔軟性・対話型)。

研究計画書の構成



背景と目/RQの書き方

先行研究(文献)をレビューし、なぜ本研究が必要・重要なのかを説明する。
(先行研究のマップの中に、本研究を位置づける)

【主題の呈示】

本研究で扱う主題は何ですか？簡単に説明してください。
特定の疾病や概念を扱う場合は、その簡単な定義を述べて下さい。

感受概念(Blumer 1954, Charmaz 2006)
研究の方向性を大まかに示す概念
定義はおおざっぱでよい
(測定可能な基準に基づく定義ではない)

【文献・先行研究レビュー】

その主題について、これまで議論されてきたことは何ですか？
経験に基づく知見、文献に基づく知見どちらも書いてOKです。

総論/グローバルな文献レビュー
→ 各論/ローカルな文献レビュー

【問題提起】

その主題について、何が問題となっていますか？
紛争中、未解決、不適切、研究不足、である課題 → 前提を崩すアイディア

【目的/RQの呈示】

本研究は、何をどう明らかにすることで、その問題を解こうとしていますか？

【学術的貢献・重要性・新規性】

本研究が問題を解くことで、どの学術領域のどんな知見が発展しますか？
もし本研究をやらなかつたら、どんな困ったことになりますか？

方法の書き方

RQに答えるために、なぜ、その方法・アプローチ(認識論)・調査手法を採用しなければならないのかを説明する。(目的に照らした方法の正当化)

【研究デザイン】

全体の研究デザインを簡単に述べて下さい。質的・混合・エスノグラフィなど。

なぜそのデザインを採用したのですか？

エスノグラフィ

参与観察が主である方法。
相手の生活世界に入り込み
研究者自ら体験しながら理解していく

【アプローチ(認識論・理論)】

データ生成・分析・執筆をどのような立場・理論・認識論に基づき行いますか？

アプローチ

背景で前提を崩す際に表明した立場、
自分の考えの背景にある理論や思想。
他に影響を受けた理論や思想など。

【調査地・施設・集団(サンプリング)】

どこで調査を行いますか？ 国、地域、医療施設、組織等。

なぜ、その調査地・集団を選んだ(選ぶ必要がある)のですか？

但し、背景の文献レビューを
これに代えることもできる

【参加者(サンプリング)】

調査参加者は誰ですか？必要なら、適格基準・除外基準を書いて下さい。

どのサンプリング法を採用しますか？それはなぜですか？

対象者をどのようにリクルートしますか(誰のネットワークから)？それはなぜですか？

いつ、サンプリングを終了しますか？

方法の書き方（資料）

サンプリング法

→フリック著『質的研究入門』第11章 p148～

Patton, 1990. Qualitative evaluation and research methods, SAGE,
p.169-186. <https://legacy.oise.utoronto.ca/research/field-centres/ross/ctl1014/Patton1990.pdf>

139

第11章

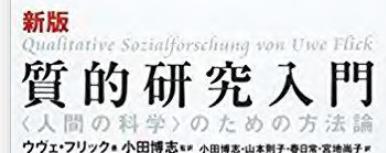
サンプリング戦略

——研究プロセスにおけるサンプリングの決定

139

図み11.1 質的研究におけるサンプリングの戦略

- ・事前の決定 a priori determination
- ・完全調査 complete collection
- ・理論的サンプリング
- ・極端な事例のサンプリング
- ・典型事例のサンプリング
- ・多様性最大化のサンプリング
- ・強度の高い事例のサンプリング
- ・決定的事例のサンプリング
- ・微妙な事例のサンプリング
- ・利便性の高い事例のサンプリング
- ・第1選択肢
- ・第2選択肢



21

サンプリング法

※実際には複数の手法を組み合わせる

いつ終えるか

完全調査(全数調査)

対象集団の全員からデータを採る

全て採ったら

目的志向のサンプリング

典型事例のサンプリング

その研究テーマについての典型例を示す事例をサンプリングする。

代表事例のサンプリング

その研究テーマに関する代表的な事例をサンプリングする。

逸脱事例(極端な事例)のサンプリング

あるプログラムの評価をする目的で、顕著な成功事例・失敗事例を選択するなど。極端な事例をもとに、その研究テーマの全体像の理解を目指そうとする。

強度の高い事例のサンプリング

研究テーマがどれくらいの強度でその事例に現れているかという判断をもとにサンプリングする。最も強度の高い事例を選択したり、強度の異なる事例を系統的に取り入れ、比較する。

- ・該当事例を全て調べたら
- ・研究目的・RQに答える結論と証拠が得られたら

決定的事例(重要な事例)のサンプリング

事象や意味の関係性がことさらに明瞭な事例や、評価対象のプログラムの機能に関してとりわけ重要な事例を選択する。

政治的に繊細な事例のサンプリング

政治的に重要もしくは繊細な事例を選択する。しかし、その事例が衝撃的で、改革プログラム自体を危うくするおそれがあれば、除外すべき。

多様性最大化サンプリング

少数の、しかしできるだけ多様な事例を取り入れて、フィールドに含まれる多様性の幅や相違点を明らかにしようとする。

全ての多様性のバリエーションを調べたら

雪だるま式サンプリング

研究協力者の知人など社会的ネットワークを通じて事例を選択する。

目的・RQに答えたたら

×利便性の高いサンプリング

与えられた状況の中で最も接近しやすい事例を選択する。

理論的サンプリング

研究目的・RQに答えるため、その事象のあらゆるバリエーションを吟味し、暫定仮説の生成と検証を繰り返して結論に至るためのサンプリング。

理論的飽和に至ったら

22

方法の書き方（資料）

理論的サンプリング

得られたデータの分析結果をもとに分析的問い合わせを立て、それを解くためにさらなるデータを求め、暫定仮説の生成と検証を繰り返して結論に至るためのサンプリング法。

理論的飽和

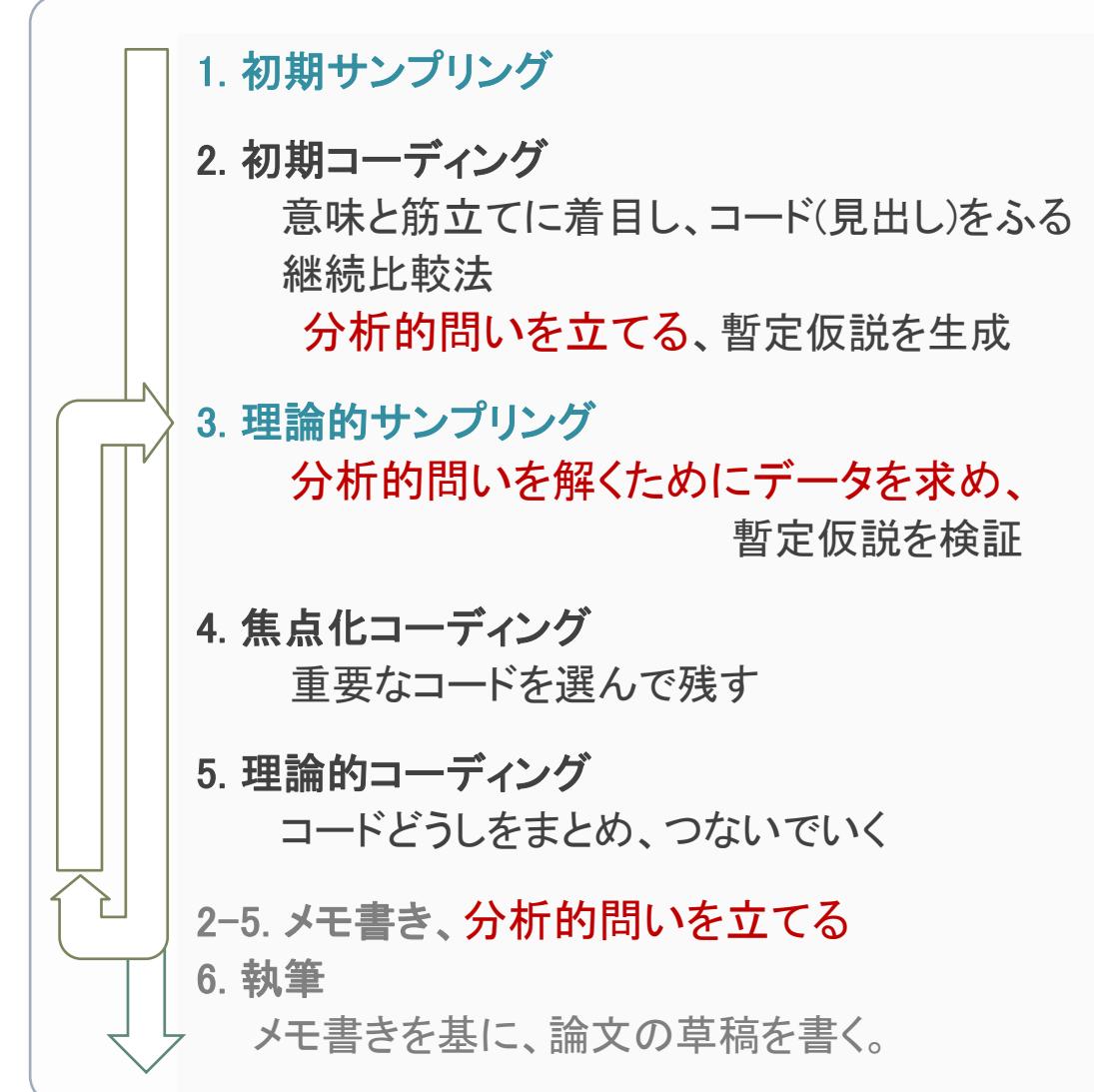
理論的サンプリングを用いた場合に生じるサンプリングの終着点。

理論的飽和のサイン：

例)新規データをとっても、同じコードしか見い出せない。

例)新たな分析的問い合わせ立てようとすると、研究スコープを超ってしまう。

23



方法の書き方

RQに答えるために、なぜ、その方法・アプローチ(認識論)・調査手法を採用しなければならないのかを説明する。(目的に照らした方法の正当化)

24

【データ生成】

どの手法を使って、どのようなデータを生成しますか？

インタビューやフォーカスグループを行う場合：

誰に、どこで、何語で、何を聞きますか？なぜ？ 録音記録と逐語稿作成はしますか？

インタビューしながら観察も行いますか？いつ、何をメモに書きますか？なぜ？

参加者に謝礼は支払いますか？なぜ？

通訳(解釈者・翻訳者)を雇いますか？ → キャパシティビルディングについて述べる

観察をする場合：

誰を/何を、どこで、観察しますか？

何に焦点をあててして観察し、いつ、何をフィールドノートに記載しますか？なぜ？

【データ分析】

どの分析手法を用いますか？なぜ？ メンバーチェックをどのようにしますか？

翻訳について

いつ、どの言語で、何をするか

言語とは

思考や解釈を表現する記号

思考や解釈を形づくる道具

Sapir (1929), Whorf (1956),
Chomsky (1968)

観察

非言語の表出をみることで
意味を解釈する

『方法としてのフィールドノート』
(Emerson et al. 1995)

方法の書き方（資料）

代表的なデータ生成法

- ・ インタビュー
- ・ フォーカス・グループ・ディスカッション(FGD)
- ・ 観察法
- ・ デジタル・エスノグラフィ
- ・ ヴィジュアル分析(写真・絵など)、マテリアル・エスノグラフィ
- ・ 資料分析、日記分析、手記分析、Web-text分析



フォーカス・グループ・ディスカッション

	できること	できないこと
インタビュー 構造化・半構造化・ 非構造化	個人の主観的世界のうち、語られたものを深く理解できる	語られないもの(個人の行動や社会的交渉など)は把握できない
フォーカス・グルー プ・ディスカッション Focus-group discussion (FGD)	<ul style="list-style-type: none">・集団で共有されている世界観(価値観、規範など)のうち、語られたものを理解できる・語られないもののうち、FGD内で表出されるもの(関係性ダイナミクスや社会的交渉など)を観察できる 例)意思決定過程、グループ内の力関係	<ul style="list-style-type: none">・個人の主観的世界を深く知ることはできない・日常の自然な関係性ダイナミクスや社会的交渉は観察できない
観察法 Observation 参与観察 非参与観察	<ul style="list-style-type: none">・日常の自然な関係性ダイナミクスや社会的交渉、個人や集団の実践などを広く観察できる・研究者自らが、体験を通じて事象を深く理解できる	個人の主観的世界を深く知ることはできない

方法の書き方（資料）

様々な分析法

- ・内容分析 Content analysis
- ・フレームワーク分析 Framework analysis
- ・主題分析 Thematic analysis → グラウンデッドセオリー構築法は、主題分析の亜型
- ・ナラティブ分析 Narrative analysis
- ・会話分析 Conversation analysis
- ・ディスコース分析 Discourse analysis

※分析結果は、分析法よりも、分析視点(認識論やアプローチ)で決まる。

分析対象	データの種類	参加者の数	
内容分析 Content analysis	・語りの内容を分析する ・予めある枠組みや定義に沿って分析	語られたもの 書かれた/描かれたもの	少数～多数
主題分析 Thematic analysis	・語りの主題を分析する ・個人から集団まで、主観的世界から社会的交渉、社会現象まで広く分析できる	語られたもの 書かれた/描かれたもの 観察されたもの(fieldnotes) その他(写真、モノなど)	少数～多数 40名くらい
ナラティブ分析 Narrative analysis	・語りの筋立てや意味を分析する ・ナラティブ = 意味を表現し伝達するための、筋立てや記号	同上	少数 1名～10名くらい エスノグラフィでは 多数も可能

方法の書き方（資料）

インタビュー・トピックガイドの作り方

目的/RQ

↓

トピック

↓

トピックガイド の流れで作る

聞き方

関係づくり・環境づくり

傾聴重視の自然な会話

OK オープン・クエスチョン

NG クローズド・クエスチョン

筋立てのある語りを生成する質問

浅い質問（出来事・行動）→深い質問（考え・感情）

（相手は研究者のあなたほど深く考えてはいない）

例

目的:

地域住民における伝統医療の利用経験について理解し、政策改善に資する

RQ:

- 1) 地域住民における伝統医療の利用経験とはどのようなものか？
- 2) 地域住民は、伝統医療と西洋医療をどのように使い分けているか？

トピック

- 「伝統医療を利用する健康課題」 RQ1
- 「伝統医療を受けた経験とその帰結」 RQ2
- 「伝統医療と西洋医療の使い分け」 RQ2

トピックガイド

- ・最も最近、伝統医療を利用したときのことを詳しく教えて下さい。
 - ・どんな問題があつて行ったのですか？
 - ・伝統医はその問題にどう対応しましたか？
 - ・あなたの問題は最終的にどうなりましたか？
- ・同じ問題で、西洋医療を利用したことはありますか？
 - ・ある…どうしてそこへ行ったのですか？そこでどんな体験をしましたか？
 - ・ない…どうして西洋医療にかかるのですか？
- ・伝統医療についてどう思いますか？あなたの考えを自由にきかせて下さい。

省察と倫理の書き方

質的研究の質(rigour)を担保するために極めて重要な部分

【調査チーム】

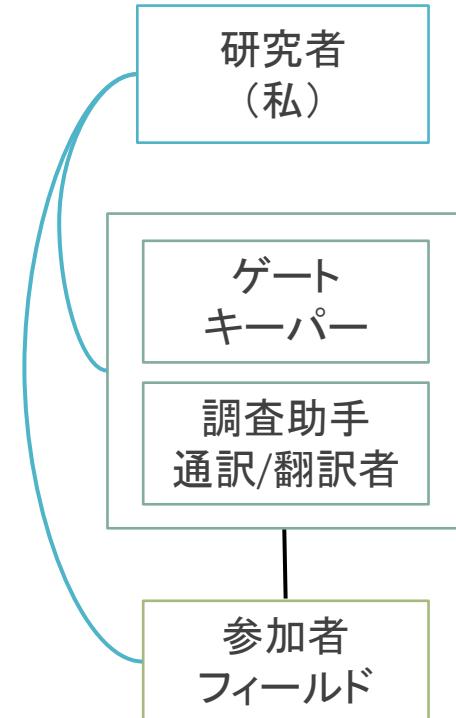
調査チームには誰がいて、どんな役割ですか？
「参加者のリクルート」「データ生成」「分析」「執筆」は誰がやりますか？

【省察】

参加者およびデータに直接接する人物について、特に、
その人物の属性や特性は、研究過程(リクルート、データ生成、分析)にどんな影響を与えるか？
その人物と、参加者との関係性は、…… “ ……？

【倫理】

- ・いつ、どうやってインフォームドコンセントをとりますか？
- ・もし調査参加後に対象者が体調不良を訴える可能性があるとしたら、どう対応しますか？
- ・思わぬ結果や、関係者にとって不都合な発見があったらどうしますか？
- ・その他、倫理的配慮を行うべきことはありますか？



フィールドに行く前の準備

練習する

模擬インタビューを周囲の人(3人くらい)とやってみる → トピックガイドを改善

模擬観察をしてフィールドノートを作ってみる

協力施設にあいさつ、関係づくり

倫理申請

前回のご質問

海外をフィールドに研究される時に、インタビューなどの言語データは現地語で収集されると思うのですが、データ分析はどのように(何語で)されていますか?いま海外出身の研究者が中心となって日本での質的研究を計画しており、研究者と研究対象者の母語が異なる場合のデータ分析の進め方について、これからの講義の中でご経験をお聞きできたら嬉しいです。

→意味、文脈、解釈が大事。逐語訳は意味の付加・脱落が起こる(私の書籍「方法」の部分)

議論や井戸端会議で感じたことが研究者にとって結論に結び付く重要な気づきになった場合、それはインタビューではなく、また同意もとっていないのですが、どのように研究として活用したらいでしょうか。

→参与観察。本来は、観察対象となる集団の代表者に同意をとり、構成員に周知をしてもらう。

質的研究の特徴の一つである「意味への着目」について、個人的には、語られていないことをその時の話の流れや言葉の用い方、表情などでその意味を推察することはあるのですが、それを分析上に掬い上げていく上で「恣意的」にならないかと気に入っている自分に気が付きました。怖がって逃げるのではなくメモにしたり書き留めていくことができちゃんと説明できるようにしたり、いろんな方の目に触れさせながら分析を進めていきたいと考えました。

→非言語データの意味の解釈は、言語できく、日常の観察で語られること、共通する使われ方説明できることが大事。

3日目のまとめ

- ・ 質的研究のリサーチクエスチョン(RQ)の立て方は、現場から生まれる素朴な疑問を、学術的な議論のなかに位置づけつつ、探索的研究によって答えられる形の問い合わせに変換する。
- ・ 研究計画書を書く際、目的/RQに答えるために最適な方法を選択し、目的に照らした方法の正当性を(簡潔に)説明する。

研究計画書を書く際の原則:
なぜ、それでなければならぬのか？を説明する。

次回は…省察。フィールドワーク。執筆。質的研究の質。

グループ・ディスカッション

探索的な問い合わせ(What, How, Why, When)を立てる練習

お題：アート活動とウェルビーイングの関係

近年、「アート活動は人々のウェルビーイングを高める」という考え方から、様々なアート活動が医療介護福祉の現場に取り入れられるようになってきました。しかし、実際にどのようにアート活動がウェルビーイングを高めるのかは良く分かっていません。参加者の体験あるいはプロセスを調べることで、参加者の視点からこの疑問に答えようと思います。そのための探索的問い合わせを設定して下さい。

グループ・ディスカッション

探索的な問い合わせ(What, How, Why, When)を立てる練習

① 「触れる」ことの意味

近年、デジタル医療が進化したことで、患者さんの身体に触れることなく診療する医療者も出てきました。医療者の中には、その方が時間短縮で良いという人もいれば、触診や手当てがあった方が良いという人もいて様々です。あなたは、「触れる」ことには医療的な意味があるのではないかと思っています。「触れる(触れられる)」ことの意味について、患者さんの視点から深く理解するための問い合わせを設定して下さい。

② 終活支援の在り方

近年、超高齢化が進む中で、終活を意識する高齢者が増えてきました。多様化する価値観や死生観、ライフスタイル等に配慮しつつ、高齢者の望んでいる終活の在り方を理解し、それをサポートするにはどうすればよいか知りたいと思っています。そのための探索的問い合わせを設定して下さい。

③ コロナのマスク着用判断

最近、政府から「マスク着用は個人の判断にゆだねる」方針が出されました。しかし依然として、マスクをし続ける人が多い状況が続いている。なぜなのでしょうか。個人がマスク着用について判断するプロセスを調べることで、その理由を知りたいと思っています。そのための探索的問い合わせを設定して下さい。

よくあるRQのタイプ

a) 当事者の主観的世界(体験、認識、意味づけ)を理解する…現象学的アプローチ

- ・ 当事者にとって、〇〇とはどのような体験か？
- ・ 当事者は、〇〇をどのように(体験、認識、意味づけ)しているか？
- ・ 当事者の目から見ると、〇〇はなぜ起こっているのか？

b) ある事象のプロセス(過程、条件、交渉、帰結)を理解する…構成主義的アプローチ

- ・ 〇〇は、どのようなプロセスで起こっているのか？
- ・ 〇〇は、どのような条件のときに起こっているのか？(〇〇はいつ起こり、そしていつ起こらないか？)
- ・ 〇〇のプロセスにおいて、AとBはどのように互いに交渉し合って(関わり合って)いるか？

c) ある事象の原理、原則を理解する

- ・ (研究者の視点から見て)なぜ、〇〇が起こるのか？

a), b), c) の組み合わせ



医療のための 質的・混合研究法

Day 4

東京大学GNRC

横浜市立大学客員准教授
オックスフォード大学リサーチフェロー
大竹 裕子©

本概論で学べる内容

1日目

- ・質的研究とは何で、質的研究法とは何をするための研究法なのかを理解する。
- ・質的・量的研究の違いは何で、混合法とは何を混合しているのかを理解する。

2日目

- ・質的・量的研究の前提となる認識論について理解を深める。
- ・質的研究の成り立ちと特徴について理解する。

3日目

- ・質的研究が実際に知を生産する過程を知る。

4日目

- ・質的研究の質 (rigour) および国際論文の査読ポイントについて学ぶ。

4日目に学べる内容

- ・質的研究が実際に知を生産する過程（特に、フィールドワークと執筆）について知ることができる。
- ・質的研究が実際に知を生産する過程において「省察」をどのように行っているのかが分かるようになる。
- ・質的研究の質 (rigour) および国際論文の査読ポイントについて知ることができる。

参考文献

- ・Green & Thorogood 2018 Chapter 3, in Qualitative Methods for Health Research, SAGE.
- ・フリック 2011 質的研究入門—“人間の科学” のための方法論 春秋社
- ・Charmaz, K. Constructing Grounded Theory 2nd Edition. SAGE Publications, London, 2014.
(岡部大祐(訳), グラウンデッド・セオリーの構築 [第2版], ナカニシヤ出版, 2020)
- ・佐藤 郁哉 2002 フィールドワークの技法: 問いを育てる、仮説をきたえる 新曜社
- ・エマーソン他 1998 方法論としてのフィールドノート: 現地取材から物語り作成まで 新曜社

質的研究の知の生産過程 〈各論〉 ～フィールドワーク～

全体の流れ

研究テーマとRQの設定
文献レビュー

研究計画書を書く
背景・目的/RQ・方法
フィールドワークの準備

フィールドワーク
データ生成・分析・メモ書き
初期
中期
後期

執筆
結果・考察



フィールドワーク 超初期 set-up period

フィールドへの参入

◆ゲートキーパー(多くの場合、通訳者となる)

あなたをフィールドに案内してくれる内部者。

この人物の「レンズ(解釈)」を通して、フィールドをみていくことになる。



ゲートキーパーや通訳者によってみえる世界が違う

調査チームの形成

◆通訳者 interpreter

インタビューに同席し、通訳を行う人。内部者が最適
この人の解釈を介した説明がされる。

◆逐語録作成者 transcriber

インタビューの聴覚データを文字データに解釈し直す人。
この人の解釈を介したデータに変換される。

◆翻訳者 translator

逐語録を翻訳する人。言語Aの意味と文脈を言語Bに解釈し直す。
この人の解釈を介したデータに変換される。

省察(フィールドノートにメモ書き)

◆の人物について…

- ・社会・経済・教育・政治・文化的な属性。
- ・どこでどう出会った？(紹介、場)
- ・あなたとの力関係は？
- ・この人はあなたをどう認識しているか？
- ・この人は調査対象からどう認識されているか？
(証言や観察をもとに分析)



これらの点が、データ生成や分析の過程に
どう影響してくるか？を分析する。

=省察の一部

調査チームへの倫理トレーニング、キャパシティビルディング
対象集団の代表(村長・会長・施設長)から調査(観察)許可を得る

フィールドワーク 超初期

トピックガイドの試用test

- ・2~3人に試用、再翻訳・改訂する。
- ・鍵概念がどのように翻訳されるか？
- ・語り手の反応、分かりにくいや言葉づかいは？

例)

「あなたの属する**コミュニティ**communityは、紛争後のあなたの生活をどう支えてくれていますか？」

…「**コミュニティ**kominoteは大きな組織なので、困った人に経済的支援をしています。私も…」

言葉と意味

日本語
「バナナ」

- ・黄色、長い
- ・ダイエット食

バナナを毎朝、食べています



ルワンダ語
「イミネチエ」

- ・黄色、短い
- ・糖分確保

「イビトーチ」

- ・緑色、長い
- ・主食の栄養

その人たちにとっての意味、その文脈のなかでの意味

通訳者の試用

- ・どんな属性の参加者が、どんな属性の通訳者にどう反応するか？

必要なら、調査チームを再形成する

41



省察(フィールドノートにメモ書き)

- ・聴き手(の属性)は語り手からどう認識されているか？
- ・その認識は、語りの内容や語られ方をどう形づくっているか？

フィールドワーク 初期

(超)初期の参与観察(1年のうち3ヵ月くらい)

信頼関係構築

- ・フィールドに慣れる
- ・フィールドが研究者の存在に慣れる

マッピングをする

- ・地理的マッピング(地理、経済、教育・医療施設)
- ・社会的マッピング(社会構造、有力者、社会集団など)
→ その後のデータの包括的な背景をつかむ

初期サンプリングを開始

RQに応答するためのデータをとり始める

- ・様々な属性の人を対象としたインタビュー
- ・様々な社会集団、小グループの観察
→ 初期分析(初期コーディング)

1. 初期サンプリング

2. 初期コーディング

意味と筋立てに着目し、コード(見出し)をふる
継続比較法

分析的問いを立てる、暫定仮説を生成

3. 理論的サンプリング

分析的問いを解くためにデータを求め、
暫定仮説を検証

4. 焦点化コーディング

重要なコードを選んで残す

5. 理論的コーディング

コードどうしをまとめ、つないでいく

2-5. メモ書き

6. 執筆

メモ書きを基に、論文の草稿を書く。

資料：データの作り方 例 ①フィールドノート

タイトル

日時と場所、観察者

空間のスケッチ

観察した空間を具体的に描写

観察内容

観察したことと具体的に記述

分析と解釈

観察内容を分析し、解釈する

曖昧なところや、疑問は()で記す

分析的問いと理論的サンプリング

分析と解釈から浮かび上がった問い

これをもとに、次のデータ収集を計画

日記(フィールドノートと別ノート)

自分の感情、感想、印象、想像、憶測などの、個人的な気持ちや考え

詳しくは以下を読んで下さい。

佐藤(2002)、Emerson et al. (1995)

タイトル 指の怪我の治療、治療関係。観察:Yuko

日時と場所 2019/05/04, 18:30, X接骨院の治療室

空間のスケッチ

少年(何歳?)が椅子に座り、その前に施術者(何歳?)が座り、後ろに機械2台と植物があり…略…(スケッチ参照)。

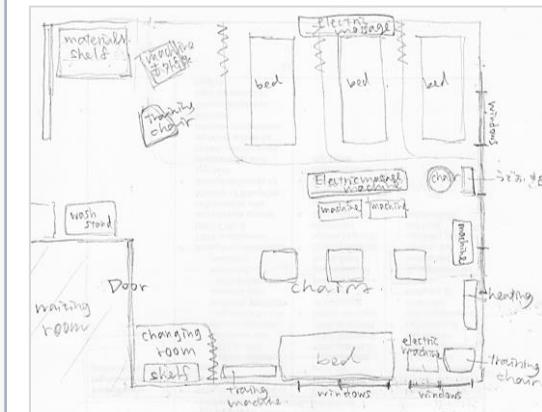
観察内容と分析(かっこ書き)

患者は座って左指に視線を落とした。他所で処置された包帯が切れている。…略…施術者の椅子は木の丸椅子で、患者の座るソフトチェアより安物である(なぜ?)。…略…施術者が、バインダーではさんだカルテをひざの上に乗せて書き始めると、患者も一緒にカルテを覗き込んだ(信頼関係の構築と関係があるのか? いかに?)。…略

分析的問い

「カルテ」という医療マテリアルを共に見ながら対話し、書き込むやり方は、信頼関係の構築に一役買っているのか? 患者にとってこれはどんな体験なのか?

→ 次回インタビュー(理論的サンプリング)



治療室のスケッチ

資料：データの作り方 例 ②逐語録

IDと回数 12(Charlotte)、1回目

日時と場所

2019/05/04, 10:30~11:30, Charlotteの自室

聴き手と通訳者 YukoとShota

インタビューの文脈

Muhozaは、赤ん坊を両手で抱きながら、笑顔でインタビューに答えた。部屋の壁にカトリック教会の配布する聖母マリアのポスターが貼られていた。

逐語録

- 1 Y: 昨日一日、何をして過ごしていたか、朝起きた
2 ときの様子から、詳しくお話しして頂けますか？ } 質問
3 S: Could you please tell us what you were doing
4 yesterday, how you spent the day, since morning? } 通訳
5 C: All right ... Yesterday, well, I woke up quite
6 early morning, perhaps it was around 5am, I
7 remember, ... I had a very good dream, in which I
8 was flying the sky with angels! Then I woke up in
. a very happy mood.
. はい…、昨日は、ええと、私はかなり朝早く目が覚
. めました、たぶん、AM5時ごろだったと記憶してい
. ます…。天使と一緒に空を飛んでいる、とても良い } 翻訳

1

12 夢を見たんです！それで、とても幸せな気分で目
13 が覚めました。

14 S: 昨日は、とても朝早く目が覚めました。5時ご
15 ろだったのを覚えています。とても良い夢を見まし
16 た。その夢の中で、私は天使と一緒に空を飛んで
17 いました。そして、とても幸せな気分で目が覚めま
18 した。

19 Y: そうなんですね。幸せな気分で目がさめて、
. それから、何をされましたか？

. S: I see. After waking up in happy mood, then,
what did you do?

. C: Well, after tha
(略)

分析的問い

・Charlotteにとって、「天使の夢を見る」ことは、
一体何を意味しているのだろう？

・聖母マリアのポスターは、信仰心の現われなの
だろうか？どんな経緯で手に入れたのか？

→ 次回、聞く(理論的サンプリング)

・赤ん坊と天使、聖母マリアのつながりは…？
→ 他の人にも聞いてみる(理論的サンプリング)

2

資料：コーディング 例 ①現象学/生きられた体験

データ(フィールドノート、逐語録、他)

取引先のクライアントに食事に誘われ、顧客だったので断れませんでした。 [...] 帰り際、エレベーターで無理やりキスをされました。どうして良いのかわからず、泣きながら家に帰りました。

会社には報告しましたが、証拠がないと泣き寝入りをするしかない状態で、

今でも思い出すと気分が悪くなります。

女性の尊厳を尊重する世の中になってほしいです。

コード(テーマ)

断れない体験

- ・食事に誘われる、断れない
- ・無理やりキスされる、どうして良いかわからない

助けを求めるが、助けてもらえない

- ・証拠がないと言われる
- ・泣き寝入り、するしかない

思い出すと、気分が悪くなる

女性の尊厳の尊重を求める

資料：コーディング例 ②現象学/メルロ=ポンティの身体性

データ内
比較
↓↑

取引先のクライアントに食事に誘われ、顧客だったので断れませんでした。 [...] 帰り際、エレベーターで無理やりキスをされました。

どうして良いのかわからず、泣きながら家に帰りました。
会社には報告しましたが、証拠がないと泣き寝入りをするしかない状態で、

今でも思い出すと気分が悪くなります。

女性の尊厳を尊重する世の中になってほしいです。

口を介した自己-他者/世界の関わり
・食事、断れない; キス、無理やり
→ 口を介し侵襲される自己の体験
(何がやりとりされている?いつ?なぜ?)

泣を介した自己-他者/世界の関わり
・泣く、どうして良いかわからない
・泣き寝入り、あきらめ
→ 世界と関われない時の表現
(泣く行為の意味は?いつ?なぜ?)

時間を介した自己-他者の関わり
・気分が悪くなる。時間=自己-他者の差異または関係性の体験。
→ 時間を介した他者の侵襲
(詳しい文脈? M=Pの「気分」?)

尊厳
・自己-他者/世界との関わりが侵襲的であると体験できない。(では、いつ?)

資料：コーディング例 ③構成主義/出来事の社会的プロセス

ID1

データ間比較 ← →

ID2

あるパーティーで、酒に酔った男性に背中を触られたが、私は大声を出すとその場の雰囲気を壊しそうで、恥ずかしいので黙って耐えた。

その後まもなく年配の女性が近づいてきて、その男性の行為を非難したあげく、

私をなじり始めた。「あなたもじつとしてないで、拒否すべきだったんじゃないの？！」。

「ああこれがセカンドレイプか」と納得したが、

女性の敵は女性という実態は変えていかねばならないと思う。

取引先のクライアントに食事に誘われ、顧客だったので断れませんでした。 [...] 帰り際、エレベーターで無理やりキスをされました。どうして良いのかわからず、泣きながら家に帰りました。

会社には報告しましたが、証拠がないと泣き寝入りをするしかない状態で、

今でも思い出すと気分が悪くなります。

女性の尊厳を尊重する世の中になってしまいほしいです。

断れない状況

- ・場を壊すから (場)
- ・恥ずかしいから(規範)
- ・顧客だから (関係性)

援助希求と二次被害

- ・責められる
- ・証拠がないと言われる

二次被害の影響

- ・気分が悪くなる
- ・納得する(諦める)

学び

- ・女性が味方になる
- ・尊厳を尊重する社会

フィールドワーク 中期

初期分析から生まれた分析的問いを解くための理論的サンプリングに重点が移る

- ・問い合わせるために必要な相手にインタビュー
- ・問い合わせるために必要な内容をインタビュー
- ・特定の社会集団、小グループの観察
- ・特定のテーマに焦点を当てた観察

焦点化コードが決まってくるので

RQとトピックガイドを改訂する

調査状況に合わせたRQとトピックガイドにする

「結局、私は何を訊ね、何を観察しているのか？」

焦点化コードの下位バリエーションをとりにいく為の理論的サンプリングに移る

コードの樹形図が豊かになり、精緻化されてくる

1. 初期サンプリング
2. 初期コーディング
意味と筋立てに着目し、コード(見出し)をふる
継続比較法
分析的問いを立てる、暫定仮説を生成
3. 理論的サンプリング
分析的問いを解くためにデータを求め、
暫定仮説を検証
4. 焦点化コーディング
重要なコードを選んで残す
5. 理論的コーディング
コードどうしをまとめ、つないでいく
- 2-5. メモ書き
6. 執筆
メモ書きを基に、論文の草稿を書く。

補足：コーディングと樹形図 例

データ(フィールドノート、逐語録、他)

取引先のクライアントに食事に誘われ、顧客だったので断れませんでした。[…] 帰り際、エレベーターで無理やりキスをされました。どうして良いのかわからず、泣きながら家に帰りました。

会社には報告しましたが、証拠がないと泣き寝入りをするしかない状態で、

今でも思い出すと気分が悪くなります。

女性の尊厳を尊重する世の中になってほしいです。

コード(テーマ)

断れない状況

- ・場を壊すから(場)
- ・恥ずかしいから(規範)
- ・顧客だから(関係性)

援助希求と二次被害

- ・責められる
- ・証拠がないと言われる

二次被害の影響

- ・気分が悪くなる
- ・納得する(諦める)

学び

- ・女性が味方になる
- ・尊厳を尊重する社会

コードの樹形図 coding scheme



フィールドワーク 後期

コードとコード、コードと下位コードをつなげる為に
軸コード(論理的つながり)を検証する

コードの樹形図は、全てのパートが理屈(筋立て)で
つながり、精緻化される

コードの樹形図が精緻化されると
理論的飽和してくる

- ・新規データをとっても、樹形図のどこかに位置づく
- ・分析的問い合わせが、研究スコープを超えるようになる

RQを改訂し、それに答える
「結局、私は何を探究していたのか？」
…私が探究していたのはこのRQで、
その答えはこの樹形図とOSOPにある

1. 初期サンプリング
2. 初期コーディング
意味と筋立てに着目し、コード(見出し)をふる
継続比較法
分析的問い合わせを立てる、暫定仮説を生成
3. 理論的サンプリング
分析的問い合わせを解くためにデータを求め、
暫定仮説を検証
4. 焦点化コーディング
重要なコードを選んで残す
5. 理論的コーディング
コードどうしをまとめ、つないでいく
- 2-5. メモ書き
6. 執筆
メモ書きを基に、論文の草稿を書く。

補足：樹形図からOSOP、結果の草稿へ 例

コードの樹形図



OSOP: One Sheet Of Paper (結果の草稿になるメモ書き)

OSOP Reasons wanting CS.

No choice/med necessity?
01 (11) 02 (needs) 18 (turns)
19 (pre-activity) 24 (previous
maternal) caring for other child/planning
02 23

Worry re: hemia
02

Swayed by low
% doing natural birth
02

Safety of baby / loss of 'distress'
03 05 08 15 27 28 29

Search of nat birth but expensive
05 15 16 29

Trust consultant
05 29 does well best

Don't like the not knowing/plan
05 06 08 16 19 with certainty
05 23 29

Tool helped
05 27

Feeling uncomfortable
05

Would have hated to
end up with another
emergency CS or long
labour

Tearing, risks of nat birth, does
05 06 15 18 (later) 28

'Seliophi' / convenience
05 19 (want to) 20 (feeling)
05 19 (want to) 20 (feeling)

Avoid induction
05

Husband stayed
in room 28

Good recovery last time.
19

Big baby
19 27

Feels would
bond better
if planned &
less tired etc
28

Is energy
would be GA
wants to be
planned & aware
24



OSOP1枚が
書籍の1章、論文1本に。



質的研究の知の生産過程 〈各論〉

～執筆～

英文 執筆の基本ルール

パラグラフライティング

トピックセンテンス(その段落で扱うトピックを示す一文)を最初に示し、その後に、詳細な説明や具体例を挙げていく。

ルワンダにおける住民の伝統医療利用

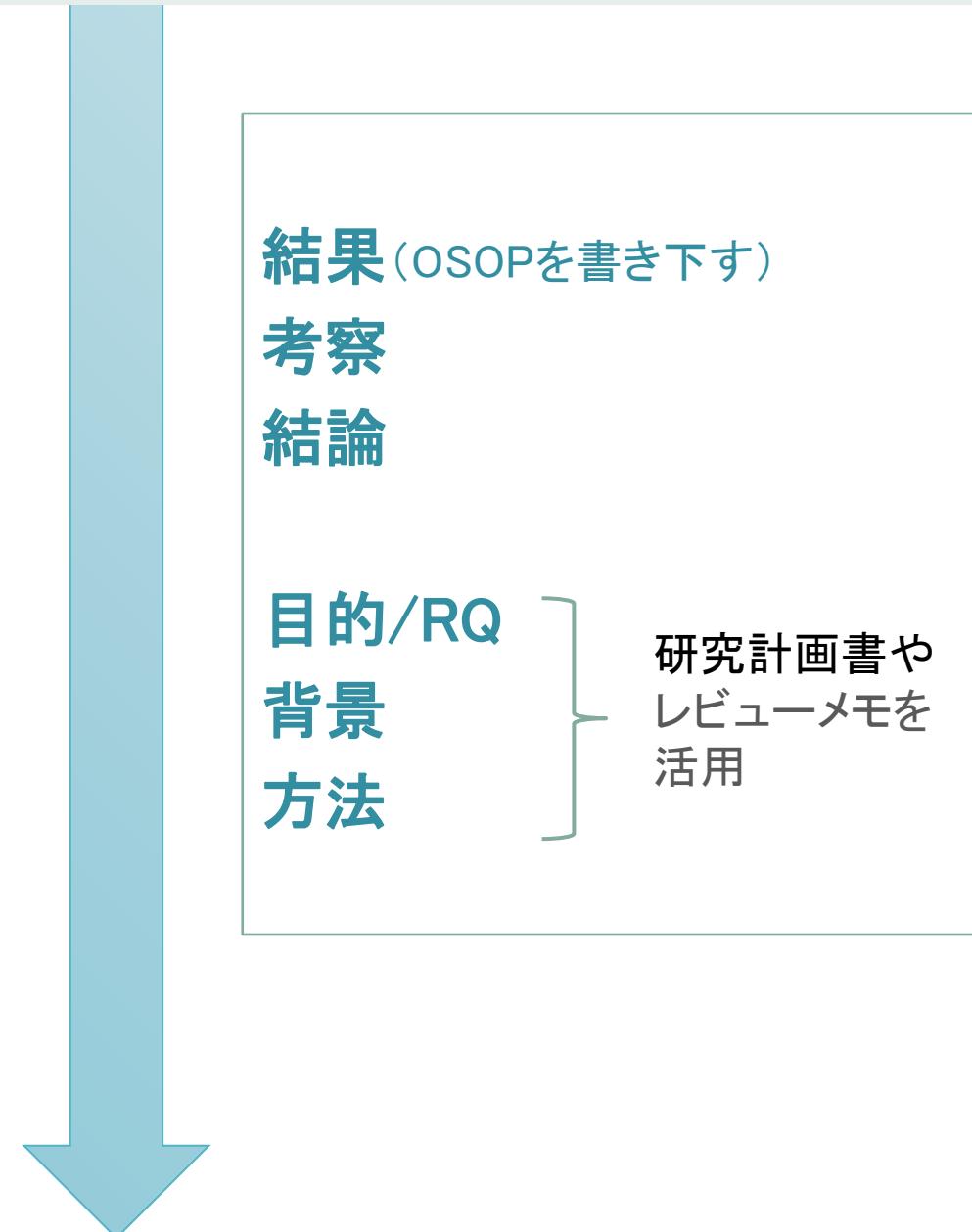
第1段落 伝統医療を必要とする健康問題

住民たちは、従来、指摘されてきた慢性疾患だけでなく、急性の健康問題にも、伝統医療を利用していると報告した。例えば、蛇に噛まれた際に、天然の薬草を用いて傷を処置すると語った住民もいた。また、他の急性疾患として……。一方、慢性疾患では……。

第2段落 伝統医療を求める経緯

住民たちが伝統医療を求める理由は幅広く、実に様々であった。最も多く報告されたのは……。

執筆の順序 (あくまでもおススメ)



結果の執筆 ① 基本の書き方

OSOPを書き下す(OSOP1枚で、書籍1章、論文1本が目安)

- ・英文のワードで、3~4ページくらい。
- ・上位コードから下位コードまで全てのコードを、接続詞や接続文linking sentenceでつなぎながら(軸足コードが接続詞・文になる)
論理的な筋立てのあるひとつのストーリーとして書く。
- ・その際、コードの元となったデータ番号(ID, Line等)も記しながら書いていく。

OSOPの書き下し文にデータ(引用文、写真など)を挿入していく。

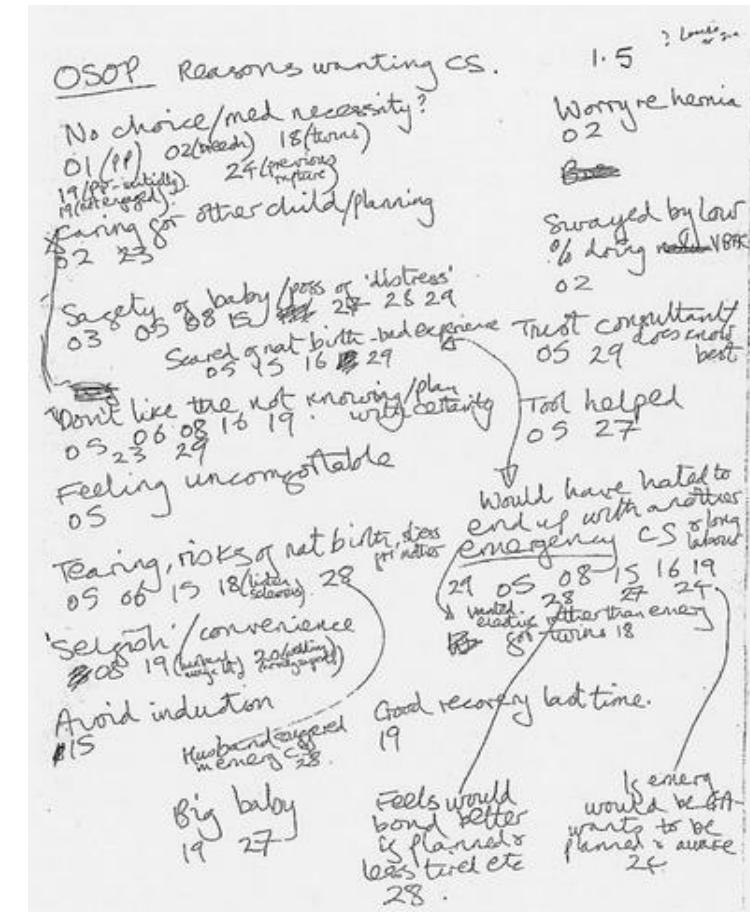
- ・5~10ページくらいの長さ。
- ・特に、「データを根拠として示したい」「説得力を出したい」部分に挿入。

※フィールドノートの記述を引用する際は、引用符はいらない。

そのまま本文の一部として書いて良い。

目的/RQとも照らし合せつつ、文章全体を整えていく。

必要に応じて、コードの名称や配列を改善する(描写descriptiveから理論theoreticalへ)



紛争による苦しみを癒す助けとなつた主な社会集団として、‘教会の集まり’‘共同貯蓄講’‘親族・近隣関係’が報告された。また、これらの社会集団に共通する実践として、‘訪ねる’‘話す’‘祈る’‘分け合う’‘助け合う’‘和解する’が見いだされた。

以下に、3 つの社会集団における6つの実践がどのようにコミュニティの回復を形づくってきたのかを記述する。

‘訪ねる’ことから始まる回復

戦火が止み、地域に安全が戻るにつれ、生き残った住民たちは互いの安否を気遣い訪問し合うようになったという(FN-2015.08.05; ID6, L25-30)。

家を‘訪ねる’ことは、ルワンダの人々にとって人間関係を築き維持する上で欠くことの出来ない行為とされている(ID17, L8; ID19, L3-5 → 引用する)。住民たちは互いに必要な助けを確認しつつ、地域に残された膨大な数の孤児や寡婦、極度の貧困状態、その他様々な困難にどう対処していくかを話し合ったという(FN-2015.08.06; ID10, L11-15 → 引用する)。

「安全が戻るにつれて…お互いに訪ね合いながら…心の傷が癒されていったんです」

教会の集まりの形成と‘訪ねる’ことによる回復

特に、紛争後に復興のリーダーシップをとつたのは、神父をはじめとする宗教家たちだった、彼らは地域住民を組織し…

メインコードの呈示

メインコード1の呈示

データに基づく接続文

メインコード1の詳述

データの引用

メインコード1の
下位コードの呈示
データに基づく接続文

資料 ②より簡単な書き方 例

OSOPを書き下す

まず、メインコードと下位コードの見出しを立てる。

57

結果 (ルワンダにおける住民の伝統医療利用)

Code 1. 住民の伝統医療希求

- 1.1 伝統医療を必要とする健康問題
- 1.2 伝統医療を求める経緯

Code 2. 伝統医療の実際

- 2.1 ルワンダ伝統医療の概観
- 2.2 診断と治療
- 2.3 帰結と予後
- 2.4 医療費

Code 3: 文化特異性疾患を癒す

- 3.1 「毒」
- 3.2 . . .



資料②より簡単な書き方 例

OSOPを書き下す

次に、見出しごとにパラグラフライティングをする。

さらに、具体例としてデータを挿入。最後に、要約を書く。

結果 (ルワンダにおける住民の伝統医療利用)

結果の概要を述べる。

メインコードをあげつつ全体を説明。

Code 1. 住民の伝統医療希求

「Code1」の概要を述べる。

下位コードをあげつつ全体を説明。

1.1 伝統医療を必要とする健康問題

「下位コード1.1」の詳細を述べる。
具体例をあげつつ詳細に説明する。

1.2 伝統医療を求める経緯

「下位コード1.2」について、同上。

Data (quotation)

最後に、「Code1」全体の要約と結論を書く。
そして、「Code2」につながる接続文を書く。

Tan, Otake, et.al. Local experience of using traditional medicine in northern Rwanda. *BMC Complement Med Ther* **21**, 210 (2021). <https://doi.org/10.1186/s12906-021-03380-5>

Tan et al. *BMC Complementary Medicine and Therapies* (2021) 21:210
<https://doi.org/10.1186/s12906-021-03380-5>

BMC Complementary
Medicine and Therapies

RESEARCH ARTICLE

Open Access

Local experience of using traditional medicine in northern Rwanda: a qualitative study



Mengxin Tan¹ , Yuko Otake², Teisi Tamming¹, Valerie Akuredusenge³, Beatha Uwinama⁴ and Fabien Hagenimana⁵

Abstract

Background: The popular use of traditional medicine in low-income settings has previously been attributed to poverty, lack of education, and insufficient accessibility to conventional health service. However, in many countries, including in Rwanda, the use of traditional medicine is still popular despite the good accessibility and availability of conventional health services. This study aims to explore why traditional medicine is popularly used in Rwanda where it has achieved universal health coverage.

Methods: The qualitative study, which included in-depth interviews and participant observations, investigated the experience of using traditional medicine as well as the perceived needs and reasons for its use in the Musanze district of northern Rwanda. We recruited 21 participants (15 community members and 6 traditional healers) for in-depth interviews. Thematic analysis was conducted to generate common themes and coding schemes.

Results: Our findings suggest that the characteristics of traditional medicine are responding to community members' health, social and financial needs which are insufficiently met by the current conventional health services. Participants used traditional medicine particularly to deal with culture-specific illness – *uburozi*. To treat *uburozi* appropriately, referrals from hospitals to traditional healers took place spontaneously.

Conclusions: In Rwanda, conventional health services universally cover diseases that are diagnosed by the standard of conventional medicine. However, this universal health coverage may not sufficiently respond patients' social and financial needs arising from the health needs. Given this, integrating traditional medicine into national health systems, with adequate regulatory framework for quality control, would be beneficial to meet patients' needs.

Keywords: Traditional medicine, Traditional healer, Community members, Illness

38

考察の執筆

考察でやるべきこと

- ・ 研究結果が研究目的にどう応答したのかを明確に述べる。
- ・ 先行研究のなかに自分の結果を位置づける。自分の結果が先行研究をどう発展させるのか議論し、自分の学術的貢献は何かを述べる。
- ・ 研究結果と上記の議論に基づき、政策や実践に対する提言を行う。

研究結果が明確になった時点で文献レビューをもう一度やり、考察を書く。

第1段落 結果の要約

目的/RQを改めて呈示し、結果の要約を書く。結果が、目的/RQに対する答えとなっていることが分かるように書く。

第2段落 限界AND/OR省察 (省察は「方法」に記しても良い)

限界とは、研究計画からフィールドワークまで(調査終了まで)の段階で制御できず、研究結果を解釈する上で重大な影響を及ぼす要素。

- ・どのような影響があったのか(読者は何に注意して結果を解釈すれば良いか)を述べる。また、
- ・もし研究を一からやり直せたとしたら、どうすれば良かったのかを書く。

第3段落～(3段落分くらいを目安に書く)

研究結果を先行研究・理論と組み合わせながら、次の議論をする。即ち、研究結果が、先行研究を「支持する」「くつがえす」「知識を追加する」「理論を前進・発展させる」「論争を解決する」ことを論じる。

これらの議論から導かれる結論を述べる。
(この結論は、背景・目的で述べた課題に応答する)

最終段落 学術的貢献、および政策提言・実践提言

上記の議論から導かれる、本研究の学術的・実践的な貢献を述べる。

考察の執筆 (研究結果を先行研究の中に位置づけて議論し、貢献する)

(1) Support: Your finding repeated the previous study's result.

King et al.'s study suggested....
My study **also** found... This finding supported King et al.

Echoing King et al., my study found... This finding supports King et al.

(3) Add: Your finding offers new knowledge or alternative understanding of something.

King et al.'s study suggested....
Additionally, my finding showed...
Combining the two, I suggest...

King et al.'s study suggested....
My study **offered an alternative understanding** to their result. That is...

(2) Reverse: Your finding reversed the previous study's result.

King et al.'s study suggested....
However, my study found... **This may be because...**

Diverging from King et al., my study found... **This may be because...**

(4) Advance: Your finding advanced or expanded the existing knowledge/theory.

King et al.'s study suggested....
My study **offers a potential explanation** why this happens. Namely, ...

King et al.'s study suggested....
Based on my finding, **this mechanism can be explained that...**

(5) Resolve: Your finding offer a potential resolution of an disagreed/controversial issue.

So far, some studies showed..... whereas others reported..... My study found.....; based on my finding, **the disagreement in previous studies can be understood as arising from** Given this, one potential resolution to this issue would be...

省察の執筆

省察reflexivityとは

研究者がデータとその意味を生み出すプロセスの一部であることを認識し、そのプロセスについて意識的に振り返ること。(Green & Thorogood 2018)

省察の対象

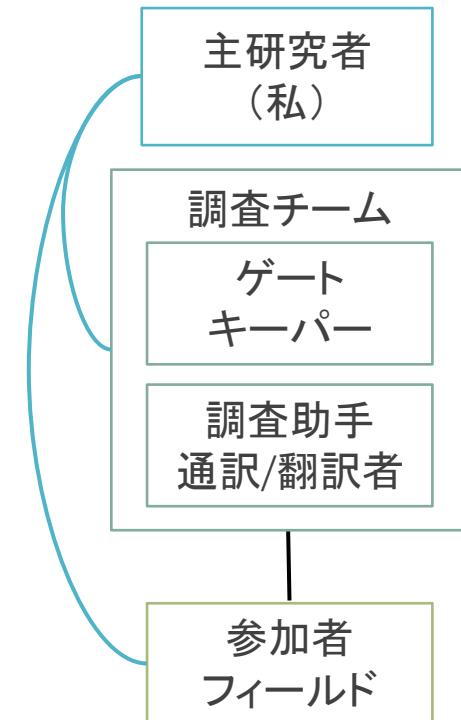
- ・ 主研究者と、調査チームおよび参加者(フィールド)との関係性(右図の青線)
- ・ 調査チームと、参加者との関係性(右図の黒線)
- ・ 調査チーム内の関係性

これらの関係性における力関係(教育、経済、社会的地位による不均衡)や、参加者からの認識のされ方が、研究過程(サンプリング、データ生成、分析、執筆)にどう影響したか？

チェックポイント

- ・ あなたはそのフィールドにどう参入したか？どんなネットワークから入ったのか？
- ・ 参加者をリクルートしたのは誰か？その人物は参加者の目にどう映っていたか？
- ・ インタビューや観察したのは誰か(同席者含め)？その人物は参加者の目にどう映っていたか？
- ・ 解釈や分析をしたのは誰か？その人物はフィールド/参加者をどう見ていたか？
- ・ 執筆をしたのは誰か？その人物は研究結果や研究プロジェクト 자체をどう見ていたか？

…を、隨時メモ書きしてためておく。それを執筆時にふり返り、報告する(「方法」または「考察」で)。



限界の執筆 (質的研究では必須ではない)

62

限界とは

研究計画からフィールドワーク終了までの段階で制御できず、
読者が研究結果を解釈する上で、重大な影響を及ぼす要素。

質的研究の「限界」は、量的研究とは異なる概念

- ・ 正規分布や「真のX」の実在を想定しないため、「真のX」からの歪み即ち「バイアス」も実在しない。
- ・ 質的研究では、フィールドワーク中に、必要に応じて研究デザインや方法を柔軟に変えることができる。

→ 方法上の「限界」はフィールドワーク中にほとんど修正可能。
それでも修正不能な「限界」の多くは、研究者(チーム)の存在そのもの、
そして参加者との関係性に起因する。…即ち、「省察」にかかわる。

限界として何を報告すべきか？

- ・ 研究計画からフィールドワーク終了までに制御できなかった方法や手続き。
- ・ 省察のチェックポイント(前頁)のうち、研究結果に重大な影響を与え、
その解釈や意味づけを大きく変えるもの。

例) 省察と限界

「紛争後ルワンダのコミュニティ回復」大竹(2021)

データ生成に特に影響を与えた要素として、筆者が‘日本人’‘女性’であったためにセンシティブな情報が開示されやすかったこと、初期サンプリングがカトリック系住民を起点としたためにキリスト教的な語りが多く収集される傾向にあったこと、解釈者の中にトウチが含まれたためにトウチの協力者の割合が母集団のトウチ分布よりも多かったことが挙げられる。本稿で示す結果はこうした影響の下に生成された仮説であり、その点に限界がある。

背景と方法の執筆

背景の簡単な書き方

「目的/RQ ⇄ 結果・考察・結論」の対応はもうできているので、この目的/RQを導くような論理的筋立てをもった背景を書いていく。

- ・ 研究計画書の「背景」を草稿として使う。筋立てや引用文献をアップデート。
- ・ 文献レビューの際に書いたメモ書き、レビュー表を活用する。
- ・ 投稿すると、必ず直すよう言われるのは「背景」。なので、作り込み過ぎない。

方法の簡単な書き方

研究計画書の「方法」を草稿として使い、実際のフィールドワーク中に変更を加えた点をアップデートする。

- ・ 変更プロセスを詳述する必要はない。最終的にとった手法を書く。
- ・ なぜその手法をとったのか、理由づけ・正当化 justification を一言書く。

最後に、全体の論旨を通す

背景と目的/RQ

各段落のトピックセンテンスは、目的/RQに結びついているか？

方法

目的/RQを達成するために最適な方法であることを正当化できているか？

結果

目的/RQに答える結果になっているか？各段落のトピックセンテンスは、各セクションのまとめに結びついているか？各セクションまとめは、(考察にある)結果のまとめに結びついているか？

考察

背景と目的/RQと呼応しているか？各段落のトピックセンテンスは、各セクションのまとめに結びついているか？各セクションのまとめは、結論や提言に結びついているか？

One Key Message
(one key argument)

あなたの主張

全ての段落とトピックセンテンスは、One Key Messageを主張するためのパート。

各段落が、論文のなかでどんな役割を担っているのかを意識しながら、全体を整える。

謝辞: 参加者への感謝を忘れない。

質的研究の質 ～厳格性 rigour～

厳格性 rigour

厳格性 rigour とは

質的研究における質を示す概念。厳格な分析と解釈がされており、結果に信憑性credibilityがあることを示す。

- ・ 認識論の違いから、量的研究の信頼性reliability、妥当性validityとは異なる基準をもつ。
- ・ 標準化されてはいないが(社会科学の立場と矛盾する)、研究者の共通認識はある。

(Green & Thorogood 2018, Rigour in analysis p191-197)

(解釈学的な)妥当性 validity

解釈が妥当である(恣意的でない、理解したい主観性を適切に理解できている)ことを指す。それは、以下から判断される。

- ・**代表性representativeness**: 結果が参加者の主観性を反映できているか。メンバーチェック。
- ・**批判的視座 critical appraisal**: 反例を十分検証しているか(研究者の誤った推論を修正)。
- ・**文脈の呈示**: 読者が解釈を判断するのに十分な文脈を呈示しているか。

(解釈学的な)信頼性(信憑性)credibility

データ、解釈、分析結果が信頼できるものか。以下から判断。

- ・**データの正確性**: データ(逐語録、fieldnotes、etc.)の正確性を確保する手続きをとったか。
- ・**議論**: 他の研究者と議論しながら分析を行ったか。
- ・**比較法comparative**: ケース間・ケース内比較をしながら分析したか。
他の研究結果と比較しながら結果を考察したか。
- ・**省察reflexivity**: 研究における研究者の役割について説明されているか。
- ・**その他の信頼性を高める方法**:

複数の分析者・コーディング担当者を用いる。

数字や頻度を可能な範囲で示す(e.g. 3つの主テーマが...3名を除き全員がこのテーマを語り...)

透明性transparent

他の研究者が追跡可能なかたちで、用いた調査手続きが明確に説明されているか。

転移可能性transferability

他の研究結果と比較検討しながら、他の文脈でも汎用性のある知を創出しているか。

(実証主義的な)妥当性 validity

解釈学では「真のX」を仮定しない。従って、「結果がどれだけ真実truthを反映しているか(測りたいものを確かに測れているか)という基準は当てはまらない。

(実証主義的な)信頼性reliability

同じデータから同じ結果を複製できるreplicationという前提にたった信頼性は当てはまらない。データの解釈・分析は、個々の研究者のもつ認識論により形成されるものであるため。

再現性reproducibility

解釈・分析は個々の研究者のもつ認識論により形成される為、当てはまらない。

一般化generalisability

量的研究のような一般化はない。

和訳 ロンドン大学衛生熱帯医学大学院 修士論文の評価基準（方法によらず）

背景

- a. 一般読者(非専門家)が読んで研究の目的を理解できるよう
に背景が書かれているか。
- b. 研究の正当性は明確にされているか。
- c. 文献を十分に調べた上で、批判的に評価しているか。

目的とRQs

明瞭かつ達成可能(回答可能)なものが明記されているか。

方法

- a. 研究デザインは適切に定義されているか。
- b. 方法は、他の研究者が再現可能なように、明確かつ十分
詳細に記述されているか？
- c. 方法は、研究の目的・目標に取り組むために適切か。
- d. 適切な許可・承認が記されているか？
- e. 収集されたデータを適切に使用するための方法が明確に
記述され、正当化されているか。またそれらは研究の狙い
や目的に取り組むために適切な方法か。

結果

- a. 関連する結果を適切にまとめて呈示しているか。
- b. 示されたデータは適切なものか。また、データの内容や構成は
前のセクションまで(背景・目的・方法)と一貫しているか。

考察

- a. 結果は適切に要約されているか。
- b. 研究デザインや分析方法の長所・限界・前提が明記され、選択
肢や代替アプローチが適切に検討されているか？
- c. 考察は、先行研究および本研究目的の文脈において議論され
ているか。
- d. 研究結果の貢献について、特に公衆衛生上の広い文脈のなか
で議論されているか。
- e. 結論と「学んだ教訓」は明確で適切か。それらは研究結果、限界、
先行文献を反映しているか。
- f. 今後の研究やアクションについての提言は、明確かつ適切で、
本研究から正当化できるものか。

原文 ロンドン大学衛生熱帯医学大学院 修士論文の評価基準 (方法論によらず)

Background

- a. Is the background sufficient for the general reader to understand the study objectives?
- b. Has the justification for the study been made clear?
- c. Has the literature been explored adequately and appraised critically?

Objective & RQs

- a. These should be clearly stated, explicit and achievable.

Methods

- a. Is the study design correctly defined?
- b. Are the methods described clearly and with sufficient detail that the study would be reproducible by other researchers?
- c. Are the methods appropriate to address the study aims and objectives?
- d. Have the appropriate permissions/approvals been documented?
- e. Are the methods clearly described, justified, an appropriate use of the data collected and adequate to address the study aims and objectives?

Results

- a. Does the text summarise relevant results and present them appropriately?
- b. Are the presented data appropriate and aligned in contents and structure to previous sections?

Discussion

- a. Are the results well summarised?
- b. Are the strengths/limitations/assumptions of the study design and analysis method highlighted and choices/alternative approaches explored appropriately?
- c. Is the study discussed in the context of other relevant work and the study aims?
- d. Are the implications of the findings discussed, in particular within a wider public health context?
- e. Are the conclusions and 'lessons learned' clear and relevant? Do they reflect study results, limitations and the published literature?
- f. Are the recommendations for further research and action clear and relevant and justifiable given the research presented?

厳格性 rigour 、査読基準に関する文献リスト

『医療のための質的研究』教科書

- Green & Thorogood 2018, 'Rigour in analysis', p191-197, in Qualitative Methods for Health Research, SAGE.

政策学研究の雑誌に掲載されている論文だが、広く社会科学の質的研究における厳格性が議論されている

- Branda Nowell, Kate Albrecht, A Reviewer's Guide to Qualitative Rigor, *Journal of Public Administration Research and Theory*, Volume 29, Issue 2, April 2019, Pages 348–363, <https://doi.org/10.1093/jopart/muy052>

COREC—医療系質的研究で用いられるチェックリストだが、各項目の意味をよく理解している必要がある。

- Allison Tong, Peter Sainsbury, Jonathan Craig, Consolidated criteria for reporting qualitative research (COREQ): a 32-item checklist for interviews and focus groups, *International Journal for Quality in Health Care*, Volume 19, Issue 6, December 2007, Pages 349–357, <https://doi.org/10.1093/intqhc/mzm042>

- COREC Checklist http://cdn.elsevier.com/promis_misc/ISSM_COREQ_Checklist.pdf

CASP—質的研究の(システムティック)レビュー&Narrative synthesisで使われる

- CASP Qualitative Studies Checklist <https://casp-uk.net/casp-tools-checklists/>

- 山本 則子『看護実践に関する事例研究のための査読基準の提案とその可能性』看護研究 53 (4), 304-310, 2020 <https://doi.org/10.11477/mf.1681201779>

- 楠原 哲也『哲学・臨床実践の現象学における査読基準と事例研究』看護研究 53 (4), 284-291, 2020 <https://doi.org/10.11477/mf.1681201776>

- 能智 正博『質的研究の評価をどう考えるか』 質的心理学フォーラム 11 43–53, 2019 https://doi.org/10.24525/shitsuforum.11.0_45

- 能智 正博『質的研究の質と評価基準について』東京女子大学心理学紀要 1 87–97, 2006 <http://id.nii.ac.jp/1632/00017261/>

- 濑畠 克之, 佐々木 健『厳密なプロセスにもとづいた質的研究を行うための提言 方法論の概念整理と研究のデザイン・評価』日本公衆衛生雑誌 50 (6), 480–484, 2003 https://doi.org/10.11236/jph.50.6_480

- 久保田 賢一『質的研究の評価基準に関する一考察：パラダイム論からみた研究評価の視点』日本教育工学雑誌 21 (3), 163–173, 1997 https://doi.org/10.15077/jmet.21.3_163

4日目のまとめ

- ・質的研究では、計画から執筆に至るまで、絶えず省察を行う。即ち、研究者がデータとその意味を生み出すプロセスの一部であることを認識し、そのプロセスについて意識的に振り返る。
- ・フィールドワークでは、問い合わせながら探索することで現場と論理的推論を行き来し、現場から離れずに相手の主観性と生活世界を深く理解する。
- ・質的研究の質は厳格性と呼ばれる。解釈の妥当性、研究プロセスの信頼性、方法の透明性、結論の転移可能性などが重視される。

One Take-home Message

質的研究は、研究者と研究参加者が共に知を創り出すプロセスである

グループ・ディスカッション

インタビューを計画する際の「省察」を考えてみよう。

3日目の研究テーマ(触れることの意味)、終活支援の在り方、マスク着用判断)のいずれかのテーマで、
インタビュー調査計画を書くという想定で話し合う。

- ・ グループのメンバーがインタビューを行う(インタビュアーになる)という設定で…どんな属性の人がいますか？
- ・ インタビュー参加者の属性は？ インタビュアーとのあいだにどんな関係性ダイナミクスが働きそうですか？
- ・ インタビュアーの属性や、インタビューを行う場所、インタビューへの参加ルートなどが、
語られる内容や語られ方をどんなふうに形づくると思いますか？

紛争後ルワンダのメンタルヘルス

本研究では、知識は、「エリート」が一方的に教えるものではなく、研究者が現地の人々の知識や理解を反映せながら共に創り出し、そして、可能な限り彼らに還元するものだと考える。従って、現地調査助手とデータ解釈や分析コード、研究結果について議論しながら知識を創り出すが、その際に働く力関係に注意を払う。

外国人研究者(私)とルワンダのコミュニティ参加者とのあいだの力関係にも、特に注意を払う必要がある。西洋人研究者としての自分の属性、教育やジェンダーによる、潜在的なパワーダイナミクスを反省的に振り返り、自分自身の行動や相手とのやりとりを注意深く分析する。

データ生成と分析の際には、この調査研究そのものが、ルワンダの人々から求められたものではないことを認識し、調査をするという行為自体を反省的に振り返りながら行う。私と彼らとのあいだにある避けがたい権力関係を自覚し、必ずしも調査に参加する義務はないこと、同意の上で自由に答えたり答えなかったりできることを周知徹底する。

コロナ禍の日常における医療者・非医療者の行動規範

インタビュアー(医療者)とインタビュイー(医療者)が知己であり、職場や大学等で先輩後輩関係がある場合、社会的に不適切とされる行動や、エビデンスが低いとされる情報源から情報を得ていたりしても、語られにくい可能性がある。

インタビュアーの家族・友人・同僚が参加者の場合も同様に、近い間柄であるために社会的に不適切とされる行動について詳しく語られない可能性がある。インタビューは、これらの関係性を意識した上で行う必要がある。また、参加者の価値観などを率直に聞くため、回答の内容によって参加者が不利益を被らないことを、インタビュー開始時に伝える。

また調査チーム内部では、年齢や研究経験に差があるため、若年のメンバーや経験の少ないメンバーが意見を言いにくく、その意見が反映されにくい可能性がある。チーム内でミーティングや分析を行う場合は、その点を意識して、若年のメンバーや質的研究の経験が浅いメンバーの発言を促す必要がある。

ご案内：講義で例にあげた、ルワンダのエスノグラフィです

紛争地の医療人類学

生きることがなぜ、たましいの傷を癒すのか

大竹裕子

みすず書房



2023年夏ごろ出版予定

予約名簿へのご登録をお願いします！

<https://forms.gle/rZ26Rxz7s5gbWXby7>



ご案内

医療人類学とエスノグラフィ
@YukoOtake 108 subscribers 35 videos
医療のための質的研究法、エスノグラフィ、医... >

HOME VIDEOS PLAYLISTS COMMUNITY CHANNEL >

Videos ► Play all

著者が語る
性暴力の被害者は
なぜ
抵抗できないのか?
23:43

もう、感激。
1:07:40

著者が語る
あなたをモノのように扱う
性暴力
モノ化
15:37

Facebook

<https://www.facebook.com/yuko.otake.739/>

Twitter

<https://twitter.com/YukoOtake4>

Youtube

<https://www.youtube.com/@YukoOtake/featured>

ベルマークを押すと
新着情報の通知が届きます。

75